

# 東大阪

## かわなかてい やしきばやし 川中邸と屋敷林

安永7年(1777年)作成の家系図によると、川中家の初代は大和川付替に尽力した中甚兵衛の兄で大坂夷橋北詰堺屋の養子となった善右衛門で、その子五郎平が吉田川敷に川中新田を開発したとされている。

川中家には付替時の大和川流域を描いた「河内扇」や幕府役人と甚兵衛を描いた「大和川付替え成就御礼之図」などの貴重な史料が残されており、その歴史的意義は大きい。

屋敷林に囲まれるようにして建つ茅葺屋根が見事な主屋は、かつての面影をそのまま遺しており、日本家屋の原則通り「夏は非常に涼しい」とのこと。

その主屋とその北側の離れ座敷は、平成18年11月29日に国の登録文化財に指定されている。



川中邸と屋敷林全景



河内扇

所在地：東大阪市今米 1-4-38  
最寄駅：近鉄けいはんな線吉田駅下車徒歩5分  
見学：春期と秋期(要事前連絡)  
TEL：0729-61-5050

屋敷林は江戸時代から長い間、木々の交替を繰り返しながら存続し、かつては燃料や堆肥などの供給源として、また一部は鑑賞用、防風・防火などの大切な役割を果たしつつ常に人の手が入ってきた。

時代が進むにつれ生活に直接必要のないものになった屋敷林は荒れ果てていったが、昭和59年9月、約5000㎡が大阪府における緑地保全地区の第一号として指定され、さらには平成元年には府民投票による「大阪みどりの百選」が選定され、この屋敷林もそのひとつに選ばれたことにより、自然的環境と歴史的環境を一体的に保全する体制が整ったと言える。

現在は様々な高木・低木に草木類、キノコ類、コケ・シダ類やそこに棲息する小動物、野鳥、昆虫などが加わり、一つの生態系を構成している。(仙入 洋)